

ミューザ川崎シンフォニーホール & 東京交響楽団

# 名曲全集 第206回

*MUZA Kawasaki Symphony Hall & Tokyo Symphony Orchestra  
The Masterpiece Classics Series No. 206*

2025年4月6日(日)

*Sunday, 6 April, 2025*

ミューザ川崎シンフォニーホール  
*MUZA Kawasaki Symphony Hall*

アンケートにご協力をお願いします  
<https://gws-net.com/muza/>



ミュージア川崎シンフォニーホール&amp;東京交響楽団

## 名曲全集 第206回

MUZA Kawasaki Symphony Hall & Tokyo Symphony Orchestra  
The Masterpiece Classics Series No. 206

2025年4月6日(日)14:00開演 Sunday, 6 April, 2025, 14:00

ミュージア川崎シンフォニーホール MUZA Kawasaki Symphony Hall

ブルックナー：交響曲 第8番 ハ短調 WAB 108 (第1稿/ノヴァーク版) (85')  
Anton Bruckner: Symphony No. 8 in C minor, WAB 108 (1st version, ed. L. Nowak)I アレグロ・モデラート  
Allegro moderatoII スケルツォ：アレグロ・モデラート  
Scherzo: Allegro moderatoIII アダージョ：荘重にゆっくりと、しかし引きずらず  
Adagio: Feierlich langsam, doch nicht schleppendIV フィナーレ：荘重に、急がずに  
Finale: Feierlich, nicht schnell※演奏時間は目安です  
※休憩はございません指揮：ジョナサン・ノット  
Jonathan Nott, Conductor管弦楽：東京交響楽団  
Tokyo Symphony Orchestra, Orchestraコンサートマスター：グレブ・ニキティン  
Gleb Nikitin, Concertmaster本日の公演は「ニコニコ東京交響楽団」(ニコニコ生放送)による無料生配信を行います。  
客席内・舞台上に収録カメラが入っております。  
なにとぞご了承ください。視聴サイト「ニコニコ東京交響楽団」(会員登録不要)  
<https://live.nicovideo.jp/watch/lv347292105>主催：ミュージア川崎シンフォニーホール (川崎市文化財団グループ)  
公益財団法人 東京交響楽団後援：在日スイス大使館  
プリティッシュ・カウンスル音楽をお楽しみ  
いただくために皆様にコンサートを  
お楽しみいただくために、  
ご協力をお願いいたします。開演中は、携帯電話・スマート  
フォン・タブレット端末など音や  
光を発する電子機器の電源をお  
切りください。光を強く反射する  
物は鞆におしまいください。時計のアラーム・時報などは設  
定の解除をお願いいたします。ハウリングの発生を防ぐために、  
補聴器などが正しく装着されて  
いることをご確認ください。演奏中の入退場はご遠慮くださ  
い。全席指定の公演です。ご自分  
の席でお聴きください。許可のない写真撮影・録音・録  
画は固くお断りいたします(カー  
テンコール時を除く)。演奏中に音が出ないよう十分  
ご注意ください(鈴のついたお  
手荷物・鉛の包みを開ける際  
の音・プログラムをめくる音など)。演奏中の会話はお控えくださ  
い。演奏が終わったとき、音が消え  
ゆく余韻を十分に味わってから  
拍手・プラボーなどの声援をお  
送りください。客席内での飲食はご遠慮くださ  
い。館内では咳エチケット・適切な  
手指消毒を推奨しております。

## カーテンコールの撮影について

「名曲全集」シリーズでは、終演後のカーテンコールの撮影が可能です。  
撮影は自席にご着席のまま、周りのお客様へご配慮いただきますようお願いいたします。

※アンコール演奏中は撮影いただけません。

※フラッシュの使用、目線より高い位置での撮影はご遠慮ください。

※SNSなどに掲載する際は、ほかのお客様の映り込みにご注意ください。

※スマートフォン、携帯電話以外のカメラでの撮影、自撮り棒の使用はご遠慮ください。



©N.Ikegami

指揮 Conductor

ジョナサン・ノット Jonathan Nott

2014年度より東京交響楽団第3代音楽監督。

1962年イギリス生まれ。ケンブリッジ大学で音楽を専攻し、マンチェスターのロイヤル・ノーザン・カレッジでは声楽とフルートを学び、その後ロンドンで指揮を学んだ。フランクフルト歌劇場とヴィースバーデン・ヘッセン州立劇場で指揮者としてのキャリアをスタートし、ルツェルン響首席指揮者兼ルツェルン劇場音楽監督、EIC音楽監督、バンベルク響首席指揮者、2017年よりスイス・ロマンド管の音楽監督も務めている。

古典から現代曲まで幅広いレパートリーと抜群のセンスによる絶妙なプログラミングは、聴衆に新しい音楽体験と驚きをもたらせ絶大な支持を得ている。ミュゼ川崎シンフォニーホール開館15周年記念公演「グレの歌」や、3年がかりで取り組んだ「モーツァルト 演奏会形式オペラシリーズ」、2022～24年「R.シュトラウス コンサートオペラシリーズ」はいずれも高い評価を得た。

2010年バンベルク響とのCDが、世界で権威ある仏Midem音楽賞最優秀交響曲・管弦楽作品部門賞受賞。2009年バイエルン文化賞受賞。2016年バンベルク大聖堂にて大司教より功労勲章を授与。東響とともに2020年「ミュージック・ペンクラブ音楽賞(オペラ・オーケストラ部門)」を、音楽の友誌「コンサート・ベストテン」、毎日クラシックナビ「公演ベスト10」において、R.シュトラウス・コンサートのオペラシリーズ「サロメ」、「エレクトラ」をベストコンサートに導く。

レコーディング活動においても多彩な才能を発揮。ウィーン・フィルやベルリン・フィルとの録音のほか、東響とはオクタヴィアレコードより多くのCDをリリースしている。

教育活動にも熱心で、2014年秋にユンゲ・ドイチェ・フィルハーモニー管の首席指揮者兼芸術顧問に就任。カールスルーエとルツェルンの音楽院でも教鞭をとるほか、G.ドゥダメルを輩出した「マーラー国際指揮者コンクール」も統括した。

川崎市フランチャイズオーケストラ Resident Orchestra for the City of Kawasaki



東京交響楽団

Tokyo Symphony Orchestra

1946年、東宝交響楽団として創立。1951年に改称し、現在に至る。2004年7月より、川崎市のフランチャイズオーケストラとしてミュゼ川崎シンフォニーホールを拠点に定期演奏会や特別演奏会を開催し、市内での音楽鑑賞教室や巡回公演、川崎フロンターレへの応援曲の提供など多岐にわたる活動を行う。川崎市文化賞、文部大臣賞をはじめとする日本の主要な音楽賞のほとんどを受賞。新国立劇場開場時よりレギュラーオーケストラとして毎年オペラ・バレエ公演を担当し、教育面では「0歳からのオーケストラ」などが注目されている。海外公演も多く、ウィーン楽友協会を含む58都市80公演を開催。2024年より、アジア全体の音楽文化の向上を図る「東京交響楽団アジア・プロジェクト」を展開している。

日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サブスクリプションサービスや、VRオーケストラ、電子チケットの導入などITへの取組みも音楽界をリードしており、2020年ニコニコ生放送でミュゼ川崎シンフォニーホールからライブ配信した無観客演奏会は約20万人が視聴、2022年には史上最多45カメラで《第九》公演を配信した。2020年には「マッチングギフトコンサート」が川崎市の支援のもと開催され、自治体とオーケストラによる前例のない取組みが注目を集めた。

2014年シーズンより第3代音楽監督に就任した音楽監督ジョナサン・ノットとともに、日本のオーケストラ界を牽引する存在として注目を集めている。「モーツァルト 演奏会形式オペラシリーズ」、ミュゼ川崎シンフォニーホール開館15周年記念公演《グレの歌》に続き、「R.シュトラウス コンサートオペラシリーズ」は、音楽の友誌「コンサート・ベストテン」において、第1弾《サロメ》(2022年)が第2位、第2弾《エレクトラ》(2023年)が第1位に選出。2024年12月の第3弾《ばらの騎士》も大絶賛を博した。公式サイト: <https://tokyosymphony.jp>

音楽監督	ジョナサン・ノット	名誉コンサートマスター	大谷康子
桂冠指揮者	秋山和慶	第1コンサートマスター	小林吾成
	ユベール・スターン		グレブ・ニキティン
正指揮者	原田慶太楼	コンサートマスター	田尻 順
名誉客演指揮者	大友直人		
永久名誉指揮者	アルヴィド・ヤンソン		
	上田 仁		
	遠山信二		

<p>第1ヴァイオリン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○木村正貴</li> <li>○堀内幸子</li> <li>○森岡ゆりあ</li> <li>○小川敦子</li> <li>○小山あずさ</li> <li>○立岡百合恵</li> <li>○土屋杏子</li> <li>○中村楓子</li> <li>○水谷有里</li> <li>○吉川万理</li> </ul>	<p>ヴァイオリン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○青木篤子</li> <li>○武生直子</li> <li>○西村真紀</li> <li>○多井千洋</li> <li>○山廣みほ</li> <li>○新井瑞穂</li> <li>○小西応典</li> <li>○鈴木まり奈</li> </ul> <p>チェロ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆伊藤文嗣</li> <li>○笹沼 樹</li> <li>○川井真由美</li> <li>○内山剛博</li> <li>○蟹江慶行</li> <li>○樋口泰世</li> <li>○福嶋茉莉子</li> <li>○渡邊ゆかり*</li> </ul>	<p>コントラバス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○回助川 龍</li> <li>○ユージェ・ローズブーム</li> <li>○北村一平</li> <li>○久松ちず</li> <li>○安田修平</li> <li>○渡邊淳子</li> </ul> <p>フルート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○相澤政宏</li> <li>○竹山 愛</li> <li>○フルート&amp;ピッコロ</li> <li>○濱崎麻里子</li> </ul> <p>オーボエ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○荒 絵理子</li> <li>○荒木良太</li> <li>○浦脇健太</li> <li>○オーボエ&amp;イングリッシュホルン</li> <li>○最上峰行</li> </ul>	<p>クラリネット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○エマニュエル・ヌグー</li> <li>○ユージェ・ローズブーム</li> <li>○吉野亜希菜</li> <li>○近藤千花子</li> </ul> <p>ファゴット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○福士マリ子</li> <li>○福井 蔵</li> <li>○坂井由佳</li> <li>○前関祐紀</li> </ul> <p>ホルン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○上間善之</li> <li>○加藤智浩</li> <li>○白井有琳</li> <li>○藤田麻理絵*</li> </ul>	<p>トランペット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○澤田真人</li> <li>○ローリー・ディラン</li> <li>○野沢岳史</li> <li>○松山 萌</li> </ul> <p>トロンボーン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○大馬直人</li> <li>○鳥塚心輔</li> <li>○住川佳祐</li> <li>○バストロンボーン</li> <li>○藤井良太</li> </ul> <p>テューバ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○近藤陽一</li> </ul>	<p>ティンパニ&amp;打楽器</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○清水 太</li> <li>○山村雄大</li> <li>○武山芳史</li> <li>○綱川淳美</li> </ul> <p>ハーブ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○渡辺沙羅*</li> </ul>	<p>ライブラリアン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○林 知也</li> <li>○加藤幸子</li> </ul> <p>ステージマネージャー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○西岡理佐</li> <li>○山本 聡</li> </ul> <p>栄誉団員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○井伊 準*</li> </ul>
---	---	---	--	---	---	---

☆ソロ首席奏者 ○客演首席奏者 ◎首席奏者  
 ○フォアシュビラー ●インスペクター \*研究員 ◆故人



## ブルックナー：交響曲 第8番 ハ短調 WAB 108 (第1稿/ノヴァーク版)

大作「テ・デウム」を1884年3月に完成させた後、アントン・ブルックナー(1824~1896)は同年7月頃から「交響曲第8番」の作曲に取りかかります。翌1885年には「交響曲第7番」「テ・デウム」ともに初演され、61歳にしてはじめて、ブルックナーは国際的な高評価を得るに至りました。

いよいよ、自身にとっても、人生の総決算を意識する時期へとさしかかっていると実感したでしょうが、新しい「第8番」の作曲はあしかけ3年の長きに及んでおり、ようやく完成したのは1887年のことでした(以後、このバージョンを「第1稿」と称します)。ブルックナーは、自作を高く評価してくれた指揮者ヘルマン・レーヴィに総譜を送り、意見を求めます。ワーグナー『パルジファル』の初演のみならず、自身の「交響曲第7番」のミュンヘン初演を成功へと導き、「芸術上の父」とまで慕っていたレーヴィに、この作品の初演も担ってほしい、と考えてのことでしょう。

ところが、レーヴィは新しく完成した「第8番」に対しては、驚くほど正直に「理解できない」と伝えています。スコアを何度読んでも音楽がわからない、と感じたレーヴィは、このままでは自分はこの作品を指揮できない、とブルックナー自身につたえてしまうのです。ブルックナーは混乱し、怒り、そして激しく落胆したのです。

おそらく、レーヴィからこのような手紙を受け取らなかったら、ブルックナーは改訂を施すことなく、この作品を世に送り出すことになったはずです。自信を失ったブルックナーは、第1稿の終了後すぐに手がけはじめていた「第9番」の作曲を中断して手直しをはじめ、さらには余勢を駆って以前の「第4番」「第3番」にまで改訂を施しました。

改訂作業は1890年3月に完了しました(以後、このバージョンは「第2稿」と称します)。とはいえ、初演にはなお曲折を経ています。レーヴィは健康上の問題によって指揮を断念し、代わりにフェリックス・ヴァインガルトナーを推薦。91年、マンハイムでこの曲を初演すると約束したものの、ベルリンへの転任を理由としてこの計画は頓挫します(指揮者がこの曲を気に入らなかった、という説もあります)。結局、第1稿はお蔵入りのまま、この第2稿が、1892年12月に、ハンス・リヒターの指揮によってウィーン・フィルハーモニーの演奏会で初演されたのです。

第1稿については、1954年5月2日、ミュンヘンにて、オイゲン・ヨッフムが第1楽章だけを演奏しています。全曲は1973年9月2日、ロンドンにて、ハンス・フーバート・シェンツェラーの指揮で初演されました。

ブルックナーが手がけた「稿」と、それがどのような形態で出版されたかを示す「版」の関係、表としてまとめておきましょう。

出版年	1887年稿 (第1稿)	出版年	1890年稿 (第2稿)
1972	新全集 レオポルト・ノヴァーク版 (今回の演奏で用いられる版)	1892	いわゆる「改竄版」 カール・ハスリングァー社版(レーヴィ、 シャルク等の助言による訂正を含む)
2022	ポール・ホークショー版	1939	旧全集 ロベルト・ハース版
		1955	新全集 レオポルト・ノヴァーク版

戦後、新たな全集の編集を主管したレオポルト・ノヴァークによる「第8番」第2稿の出版は1955年です。同じ新全集の一環として、第1稿も1972年にノヴァークの校訂で出版されました。なお、第1稿は2022年にポール・ホークショーによる新しい版が出版されていますが、ノヴァーク版とのめだつた違いはほとんどありません。

通常演奏される第2稿に親しんでいる方であれば、第1稿との響きの違いは**第1楽章**から気がつかれることでしょう。とくに、第2稿では静かに消えるように終わる終結部において、第1稿では第1主題が華やかなファンファーレとなっていることに驚かれる方も多いのではないかと思います。**第2楽章**では、中間部・トリオが第2稿とかなり異なります。祈りの要素を感じさせるこの部分、第2稿ではハーブが加えられ、華やかさもありますが、第1稿は穏やかに終始します。

「第7番」と同様、長大な規模を持つ緩徐楽章が**第3楽章**です。2つの主題が交互に現れ、全体として5つの部分を形成しています。紆余曲折の上にとどり着くハ長調のクライマックスでは、第2稿で削除されたシンバルが計6回(!)響きわたります(指揮者によってはこの6回のシンバルを自身の判断で変えることもあるようです)。ただ、このハ長調は、どうやらまだ本当の大団円ではなく、引き続き**第4楽章**のドラマを導きます。ブルックナー自身が「オーストリア皇帝とロシア皇帝の邂逅」と表現した、軍楽調の第1主題が有名でしょう。そして楽章の最後、これまでの楽章で登場したすべての主題が用いられ、同時に演奏されることで、全曲の総決算をしようとする遠大な構想は、第1稿からあったことに気がきます。第2稿ではより洗練されたかたちになりましたが、この荒々しさを残した第1稿もまた、ブルックナーのもともとの意図を表すものとして、近年演奏機会が増えてきました。レーヴィの言葉さえなければ、この第1稿だけが後世に残ったかもしれないのですから、ブルックナーの夢見た理想の響きは、もしかすると第1稿のほうに数多くのこっている、と言えるのかもしれません。

(広瀬大介)

# SOUND

サウンド  ステージ

# STAGE

音楽を楽しむ  
豊かな暮らしを創造します



## 『楽器が弾ける賃貸マンション サウンドステージシリーズ』

3LDK ファミリータイプ  
もあります♪

川崎市で創業105年の建築・不動産会社

# JECTO

## ジェクト株式会社

川崎市中原区上小田中 6-20-2

バイオリン演奏者による遮音実験の  
YouTube動画をHPで公開中!



### ジュニアフォトグラファーズ

身近な自然をテーマに、子どもたちの環境意識を高め、  
豊かな感性を育む「写真教室」を開催しています。



### 綴 TSUZURI プロジェクト

貴重な日本の文化財の高精細複製品を制作し、  
広く公開することで文化財の継承に貢献しています。



### 光と色のじっけん室

カメラやプリンター技術の根幹にある  
光と色の原理について学べる  
実験プログラムを科学技術館で開催しています。



## ともに、未来へ。

喜びや感動に満ちた次世代の豊かな暮らしのために。

キヤノンは、事業で培った技術や知識を生かし、

芸術、文化、教育などのさまざまな分野で社会貢献活動を行っています。

# Canon

make it possible with canon



やくよけ・家内安全・交通安全・商売繁昌

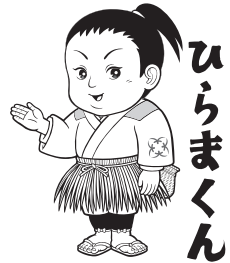
# 川崎大師

## 大本山 川崎大師平間寺

京急川崎駅から京急大師線で川崎大師下車  
JR川崎駅東口からバスで大師バス停下車

<https://www.kawasakidaishi.com>

📷 公式Instagram更新中!



ENEOS

とどけ! 熱いエネルギー ENEOS

ミュージア川崎シンフォニーホールの公演事業は  
ホールスポンサーの皆様によって支えられています

(敬称略・50音順)

### ・法人・

#### ● 特別賛助会員

川崎幸病院	キャノン株式会社	三井不動産グループ
川崎信用金庫	サントリーホールディングス株式会社	
川崎フロンターレ	ジェクト株式会社	

#### ● 賛助会員

税理士法人あおぞら会計	川崎日航ホテル	株式会社東芝
株式会社イープラス	かわさきファズ株式会社	日本冶金工業株式会社 川崎製造所
ENEOS株式会社	川崎臨港倉庫埠頭株式会社	びあ株式会社
有限会社エムシーエス・デザインズ	ケイジーケイ株式会社	ホテルメトロポリタン 川崎
神奈川臨海鉄道株式会社	公益財団法人JFE21世紀財団	ヤマハサウンドシステム株式会社
川崎アゼリア株式会社	株式会社シグマコミュニケーションズ	株式会社ワイイーシーソリューションズ
公益社団法人川崎市医師会	セレサ川崎農業協同組合	*
川崎市信用保証協会	大本山川崎大師平間寺	大宮町町内会
公益社団法人川崎市病院協会	高橋昌也税理士・FP事務所	他2法人
一般社団法人川崎市薬剤師会	株式会社デイ・シイ	
川崎鶴見臨港バス株式会社	東亜石油株式会社	

#### ● わくわくミュージア 法人サポーター

味の素株式会社 川崎事業所 川崎フロンターレ

### ・個人・

阿部孝夫	岡垣克則	国府保周	高井延幸	廣瀬裕昇	M.C
新井智彦	小笠原 将	後藤 実	高橋美子	藤嶋とみ子	N.A
市橋信一郎	岡田 元	小林知子	竹内啓介	堀江智巳	T.Y
井上敏昭	岡野 功	佐伯 昇	都築 豊	前田 泉	
宇佐美清一	金山直樹	佐藤晴茂	中村紀美子	松嶋邦生	
遠藤智和	喜多紘一	佐野義寛	西 洋子	山内利夫	他匿名16名
大越麻美子	木伏源太	杉山弘子	西山英昭	山下啓史	
大須賀徳也	久住映子	鈴木甚郎	長谷川喜代江	山田昌克	
大塚具幸	小菅みつほ	鈴木 徹	林 直人	D.Y	

(2025年4月1日現在)

### || ご支援のお願い ||

ミュージア川崎シンフォニーホールは川崎はもとより、世界における音楽文化の発展に尽力してまいります。  
芸術にご理解の深い法人、個人の皆様にご支援をお願いしております。  
多くの皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。  
詳しくはスポンサー担当 (TEL 044-520-0100) までお問合せください。